

30pmS-033

炭酸リチウム血中濃度測定状況調査及び医師への意識調査

○後藤 史子¹, 福山 雄卯介¹(¹肥前精神医療センター薬)

【目的】炭酸リチウムは有効血中濃度域が狭く、その毒性は血清リチウム濃度と密接な関係があり、血中濃度や中毒域での初期症状(頭痛・食欲低下・嘔気・嘔吐等)に十分注意しながら投与しなければ重大な副作用を引き起こす恐れのある薬剤である。そのため、定期的に薬物治療モニタリングを行う必要がある。そこで当院での炭酸リチウム服用患者の血中濃度測定状況を把握することを目的として調査を実施し、また血中濃度測定に関する医師への意識調査を実施したので報告する。

【方法】当院における2012年4月～2013年3月までの入院患者で、リチウム使用者をリストアップし、服用患者の血中濃度測定状況を調査した。また、医師向けの意識調査アンケートを作成し、調査を行った。

【結果】当院での測定率は84%であり、用量調節中の患者と維持量投与中の患者で分けると、前者での実施率は48%、後者では82%であった。

また、医師への意識調査アンケートの結果については、当日発表する。

【考察】当院では、用量調整中の患者において、血中濃度測定率が悪いと考えられる。これは、用量調整中では週に1回血中濃度測定が必要だということが周知されていないことが原因の一つではないかと考えられる。今後、医師への意識調査アンケートの結果を踏まえて、炭酸リチウムの血中濃度測定の必要性及び、測定間隔について注意喚起を行い、血中濃度測定率を100%に近づけていきたいと考える。